岡崎市ぬかたブランド協議会
事例発表

岡崎市ぬかたブランド協議会
運営委員長　荻野　昌彦

ぬかたブランド

額田（ぬかた）地域とは

○三河山地の南西部に位置する旧額田町（額田地域）は、岡崎市の東部を占める 中山間地域であり、名古屋市から約４６ｋｍの距離にある

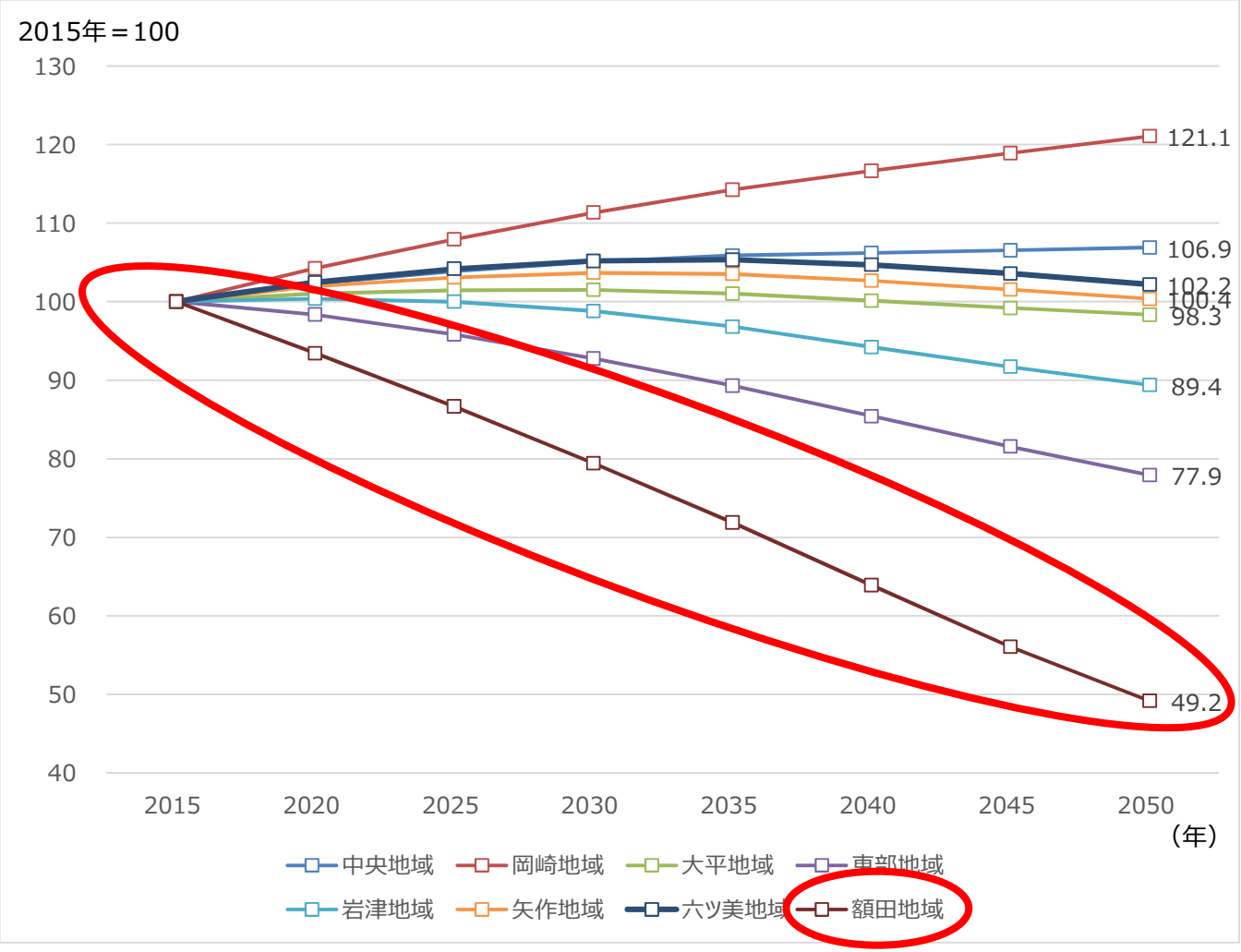
○平成18年に旧岡崎市と旧額田町が合併し今の岡崎市へ

○総面積は約160.27㎢で、岡崎市市全体の約41.4％を占めている

○農家・林家数の割合が高いにも関わらず、主要産業である農林業が低迷している状況にある

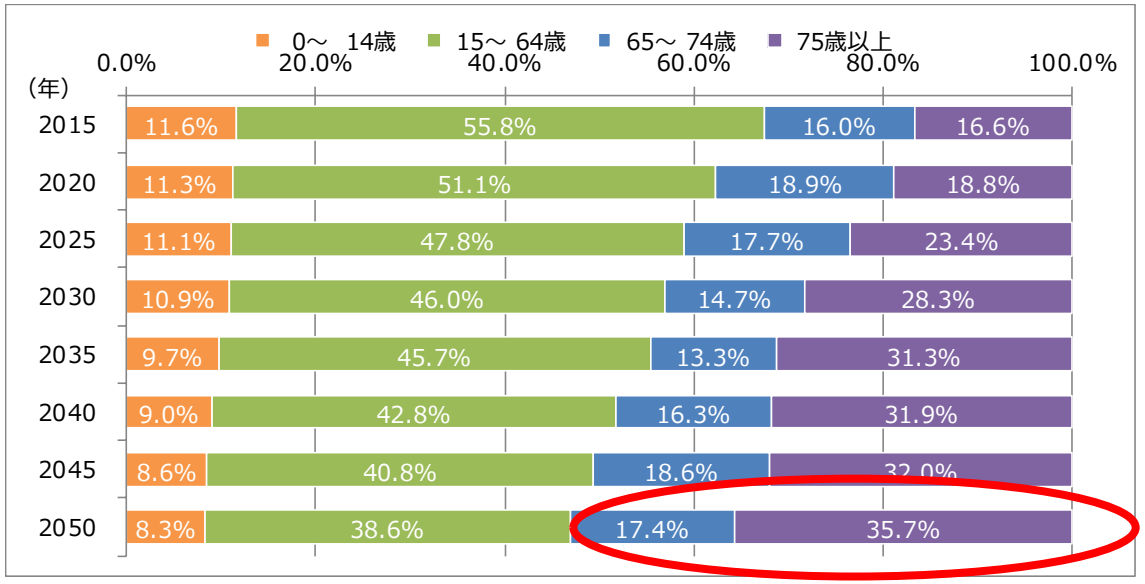
愛知県

岡崎市の地域別人口推計



←2015年人口＝100 （8,421人）とした指数では、額田地域が2050年時点で49.2（3,986人）と半数にまで落ち込むことが見込まれている

2050年には65歳以上が人口の半数を超える見込みであり、少子高齢化・人口減少問題は深刻な状況↓



年齢４階級別による人口構成の見通し（額田地域）

岡崎市ぬかたブランド協議会設立

農林業の低迷
人口現状・高齢化

↓

健全な農林水産業の維持・発展を通じた農林地及び内水面漁場環境の保全を図ることを目指していく必要性

↓

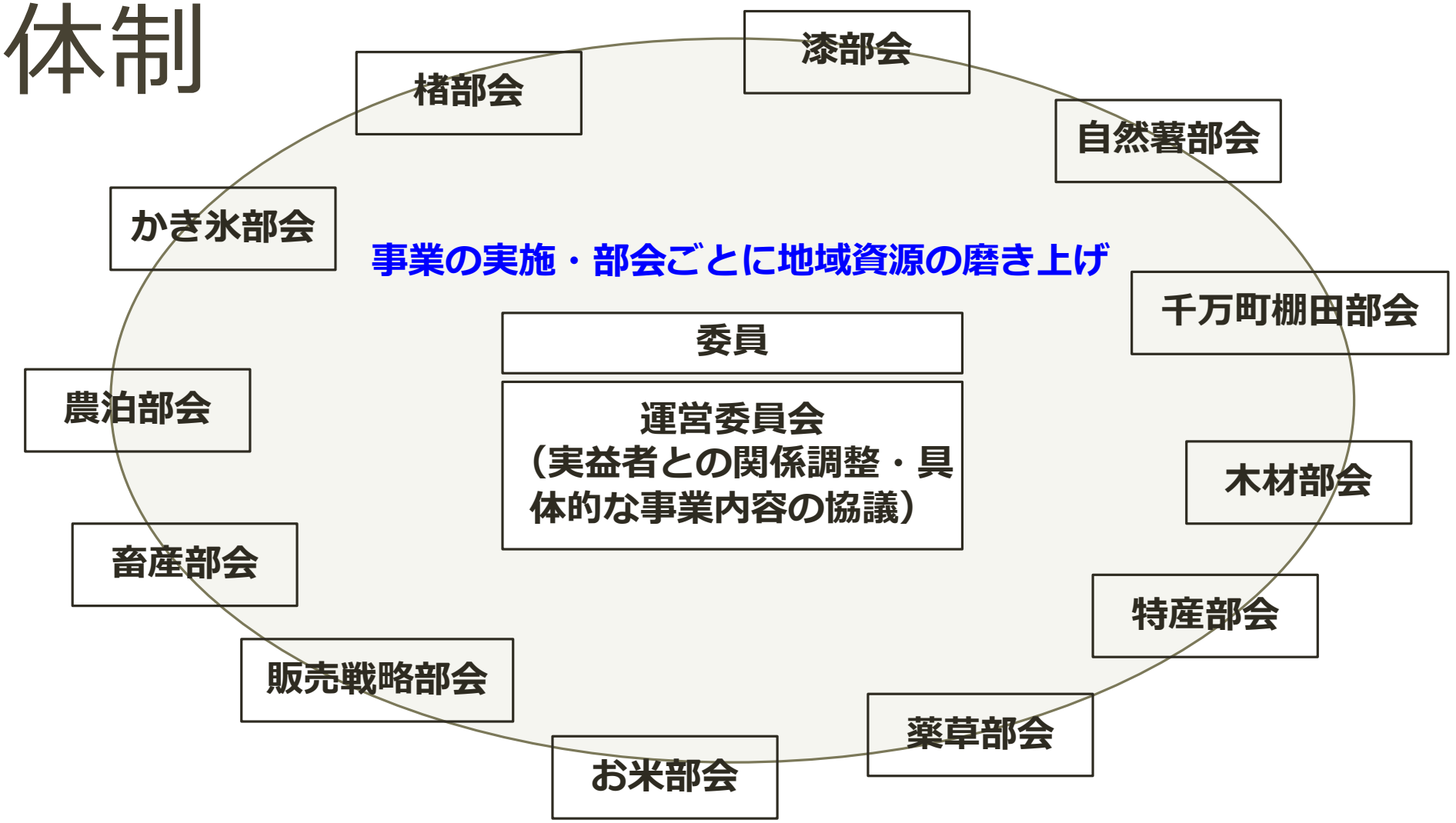
農山漁村振興交付金（山村活性化対策）を活用し、額田地域において、所得の向上や雇用の増大に向け、地域資源を再発見・再活用し、商品化や販売促進等の取り組みを行うため協議会を設立

設立年
　平成30年

構成員（９団体）
　岡崎森林組合、岡崎市ぬかた商工会、岡崎市農業委員会、あいち三河農業協同組合、額田木材製材業組合、額田地区代表農業生産組合、岡崎女子短期大学、有限会社のぞみ、岡崎市

役割分担
　事務局を岡崎市が務め、協議会内に設置された運営委員会において、実益者との関係調整・具体的な事業内容について協議するとともに、実益者を中心とする作業部会が個々に活動

実施体制



13の部会（129名）が設立
横断的販売戦略・地域全体のＰＲ活動

各部会の取組

かき氷部会

○地域の飲食店が集まり、地元の農産物（いちご、柚子、茶等）と名水を使用したかき氷を開発し、「おかざきかき氷街道」としてPR（R4は９店舗）

初年度（H30）：6,271杯

⇒R2：19,529杯

⇒R4：27,072杯

○令和４年には中山間地域の活性化及び水源地の環境保全のため、岡崎市に寄附を行っている。

○全国メディアにも取り上げられる機会は増えている。

地元のお茶農家が作ったかき氷

地元農業大学校と連携し新商品開発

鮎部会

○地域特産の鮎とミネアサヒ（中山間地域の特色を活かした良質米で生産の少ない「幻のお米」。）を使用した「鮎と飯」を提供する店を「おかざき鮎めし街道」としてPR（R4は７店舗）

○鮎のつかみ取りや鮎の塩焼き販売等も実施

提供している鮎めし

やなで鮎のつかみ取り体験

お米部会

○ぬかたで生産された「ミネアサヒ」を取り扱う事業者で集まり、「ぬかたのミネアサヒ」としてＰＲ

○リーフレットの制作や、イベント等での物販、稲刈体験を実施

○ロゴマークは岡崎女子短期大学の学生に協力いただき制作

「ぬかたのミネアサヒ」
をブランド化しリーフレットでPR

稲刈体験

千万町棚田部会

○隣接するミツマタ群生地と棚田をめぐるイベントや「千万町神楽」(県無形民俗文化財)の開催等棚田を核とした地域振興活動を実施

○地域住民によるおたすけ隊と棚田保全活動を実施

○令和４年３月には、千万町棚田が農林水産省主催「つなぐ棚田遺産」に認定

木材部会

○製材後の端材を利用し焚火の焚き付け材を販売

○自転車ラックの制作・販売

○木を売るためのシステムを皆で考え、薪を売り込むため、地元産材で足湯キットを製作し、各種イベントで足湯体験を実施

木製自転車ラック

ぬかたの焚付け材

足湯（林福連携の取組として障がい者と協働して実施）

販売戦略部会

ぬかたブランド

ブランドマーク

ぬかたブランドPRホームページ

イベント出展

地元武将隊を使ったYouTubeの配信

地域飲食店周遊マップ

取組の成果

①農林水産物の新商品・リニューアル商品販売金額

年度	H30	R 1	R 2	R 3
目標 (千円)	12,290	30,541	38,610	-
実績(千円)	9,075	24,788	38,910	41,042
達成率(%)	73.8	81.1	100.7	-

②地域資源の活用に向けて取組む人

年度	H30	R 1	R 2	R 3
目標 (人)	10	20	30	-
実績(人)	13	23	31	36
達成率(%)	130	115	103.3	-

③農産物・水産物の新商品・リニューアル商品数

年度	H30	R 1	R 2	R 3
目標 (品)	4	10	15	-
実績(品)	5	13	17	21
達成率(%)	125	130	113.3	-

◆分野ごとに設置した部会単位（かき氷、鮎、米等）での話し合いが活発に行われ、個々の事業者による取組から、地域としての販路開拓、ビジネス化を図る取組が行われるようになり、地域全体の所得向上・雇用増大につながった。

ディスカバー農山漁村の宝（第９回）選定

○今年度、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）のコミュニティ・地産地所部門にも選定されており、取組が全国にも広く認められた。

R4.12.19総理大臣官邸での選定証授与式

17

岡崎市ぬかたブランド協議会（おかざきし きょうぎかい）

－　ひと・水・緑が輝く里ぬかた　－

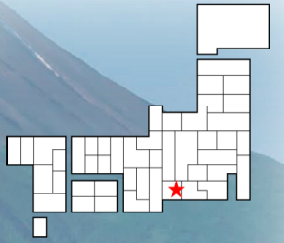
おかざきかき氷街道出店者のひとつ、農業大学校との連携

コミュニティ・地産地消部門

６次産業化

農泊

棚田保全



所在地：愛知県　岡崎市（おかざきし）

ぬかたブランドをPR

千万町棚田を核とした地域振興活動

概　要

- 平成30年に地元の商工会、森林組合、大学、市やJA等で協議会を設立。地元の農産物と名水を使用したかき氷、特産の鮎、棚田といった地域資源ごとに部会を設けて磨き上げ、観光コンテンツとしても提供。
- 地域の農林水産物・加工品に「ぬかたブランド」マークを表示。周遊マップの作成やYouTube等で発信。

成　果

- 農林水産物の新商品・リニューアル商品の売上は約900万円（平成30年度）から約4,100万円（令和３年度）に急増。
- かき氷の販売数は約6,300杯（平成30年度）から約２万杯（令和３年度）に増加。

農泊の取組を開始

○平成30年度から３年間の活動で地域資源を活用して地域の振興を図ろうとする地域住民が着実に増え、地域資源を活用した取組を行う組織体制ができた。

⇒築き上げた組織基盤を元に、令和３年度から新たに農泊部会を立ち上げ、磨き上げた地域資源をフル活用して農泊を実施することに

○地域資源の更に磨きあげや、体験に焦点を置いた地域資源の発掘を実施

・研修生を活用し、地域の体験をまとめたパンフレット（オクオカ体験マップ）の制作

・モニターツアーの開催

・専門家を交えた話し合いによる収益向上研修会

・岡崎市公式観光サイト「おでかけナビ」へ特設ページの作成

・農福・林福連携を活用した取組　など

地域の体験をまとめた
パンフレット制作

収益向上に向けた
研修会・会議

栗拾い体験の開催（体験のおもてなし側として受付等に障がい者を活用）

開発した体験等を盛り込んだ
企業向けモニターツアーを開催

岡崎市公式観光サイトへ体験施設、飲食店、土産品、宿泊施設等をまとめた特設ページ制作

古民家を活用した宿泊施設の準備

○今年度、農泊推進対策（施設整備事業）に採択され、古民家を宿泊施設へと整備中

○ソフト事業を実施する中で、空き家（古民家）の活用を検討
⇒宿泊施設へリノベーションすることに

○お茶摘み体験や柚子狩り体験等の地域の体験コンテンツ、飲食店と連携した体験型宿泊施設を目指し、体験施設や飲食施設の利用者増加のほか、関係人口や移住者の増加につなげていく

地域での先進的な取組として始めたことで、
その他地域内で古民家を改修した宿泊施設として
整備する動きも出てきている

まとめ

○協議会立ち上げから３年間の活動で、これまで各個人で行っていた活動に横のつながりが生まれ、地域ぐるみの活性化活動へ

○設立初年度は7部会（66名）であったが現在では13部会（129名）まで増加協議会の活動が活発になることで、地域資源を活用して地域の振興を図ろうとする地域住民が着実に増えている

○農泊を含め、地域活性化のためには、地域でのプレイヤーや、関係者が横でつながることができる体制が必要

○地域でがんばっている人を見て、活動に参画したいという人が増えていくことで、事業者間の連携がスムーズになり、活動が連鎖していく

ご清聴ありがとうございました